

医療情報DB基盤整備事業のあり方に関する検討会 医療情報の立場から

2014年1月20日
一般財団法人医療情報システム開発センター
山本 隆一

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

論点

- 現状のシステムをしっかりと稼働させて成果を得るべき
- 個人情報保護法制見直しの方向性(報告)
- 対象を拡充するためには

パーソナルデータの利活用に関する制度見直し方針（案）の概要

1. 制度見直し方針の背景と方向性

<背景>

- ビッグデータのうち特に利用価値の高いとされているパーソナルデータ（個人の行動・状態等に関するデータ）について、個人情報保護法制定当時には想定されていなかった利活用が行われるようになってきている。
- また、消費者のプライバシー意識が高まってきている一方で、事業者が個人情報保護法を遵守していたとしても、プライバシーに係る社会的な批判を受けるケースも見受けられる。

<方向性>

1. ビッグデータ時代におけるパーソナルデータ利活用に向けた見直し

- 保護されるパーソナルデータの範囲の明確化
- パーソナルデータ利活用のため、個人データを加工し個人が特定される可能性を低減したデータに関し、第三者提供にあたり**本人同意を要しない類型**とし、当該類型を取り扱う事業者が負うべき**義務等を法的に措置**
- センシティブデータについてはその特性に応じた取扱いを検討

2. プライバシー保護に対する個人の期待に応える見直し

- パーソナルデータの保護と利活用をバランスよく推進するため、分野横断的統一見解の提示や行政処分等を行う、**独立した第三者機関の体制を整備**

2. 今後のスケジュール

- 2013年 12月 制度見直し方針案決定
- 2014年 6月 大綱決定・公表
- パブリックコメント
- 2015年 1月 通常国会に法案提出

※欧米を含めた諸外国の制度変更との整合性を図る



3

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

個人情報保護法制の見直し方針

- > I パーソナルデータの利活用に関する制度見直しの背景及び趣旨
- > II パーソナルデータの利活用に関する制度見直しの方向性
- > III パーソナルデータの利活用に関する制度見直し事項
 - 第三者機関(プライバシー・コミッショナー)の体制整備
 - 個人データを加工して個人が特定される可能性を低減したデータの個人情報及びプライバシー保護への影響に留意した取扱い
 - 国際的な調和を図るために必要な事項
 - 諸外国の制度との調和
 - 他国への越境移転の制限
 - 開示、削除等の在り方
 - パーソナルデータ利活用のルール遵守の仕組みの構築
 - 取り扱う個人情報の規模が小さい事業者の取扱い
 - 行政機関、独立行政法人等及び地方公共団体が保有する個人情報の取扱い
 - プライバシー保護等に配慮した情報の利用・流通のために実現すべき事項
 - パーソナルデータの保護の目的の明確化
 - 保護されるパーソナルデータの範囲の明確化
 - > センシティブデータ概念の導入
 - > センシティブデータを多く含む分野については別途検討
 - プライバシーに配慮したパーソナルデータの適正利用・流通のための手続き等の在り方
- > IV 今後の進め方

4

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

個人情報保護法制の見直し方針

1. 第三者機関(プライバシー・コミッショナー)の体制整備

- パーソナルデータの保護と利活用をバランスよく推進する観点から、独立した第三者機関による、分野横断的な統一見解の提示、事前相談、苦情処理、立入検査、行政処分の実施等の対応を迅速かつ適切にできる体制を整備する。
- その際、実効的な執行かつ効率的な運用が確保されるよう、社会保障・税番号制度における「特定個人情報保護委員会」の機能・権限の拡張や現行の主務大臣制の機能を踏まえ、既存の組織、権限等との関係を整理する。

2. 個人データを加工して個人が特定される可能性を低減したデータの個人情報及びプライバシー保護への影響に留意した取扱い

- 個人情報及びプライバシーの保護に配慮したパーソナルデータの利用・流通を促進するため、個人データを加工して個人が特定される可能性を低減したデータに関し、個人情報及びプライバシーの保護への影響並びに本人同意原則に留意しつつ、第三者提供における本人の同意を要しない類型、当該類型に属するデータを取り扱う事業者(提供者及び受領者)が負うべき義務等について、所要の法的措置を講ずる。

5

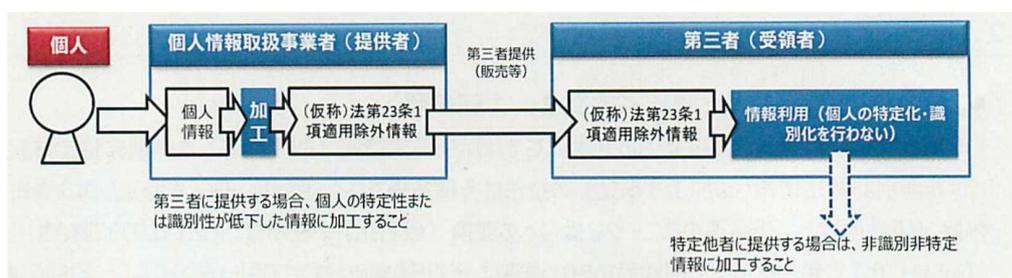
Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

匿名化と第三者提供の新たなルールの可能性(技術検討WG報告)

> 検討課題

- (1)現行法における導入可能な「再識別不可能データ化手法」
- (2)新たな立法措置を前提とした「合理的な技術的匿名化措置」の内容の検討

- > いかなる個人情報に対しても、識別非特定情報や非識別非特定情報となるように加工できる汎用的な方法は存在しない。ケースバイケースの対応が必要。つまり検討課題(1)に対応することは不可能



6

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

対象の拡充はどうするべきか

- 地域医療連携は全国で200箇所近く稼働しているが……

参加医療機関はそれほど多くなく、参加患者数もそれほど多くはない上に、情報の標準化は極めて不十分。

- 抜本的な施策の実施を前提にせざるを得ないのであるか？

7

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

The screenshot shows the HealthIT.gov website. The main heading is "EHR Incentives & Certification". The sub-heading is "How to Attain Meaningful Use". The page content includes a section for "Meaningful Use Criteria" and a "Summary of Meaningful Use Criteria and Objectives". The summary states: "In order to meet the meaningful use criteria, EPs and hospitals must adopt certified EHR technology and use it to achieve specific objectives." The page also features a sidebar with navigation links and a "Related Topics" section.

8

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

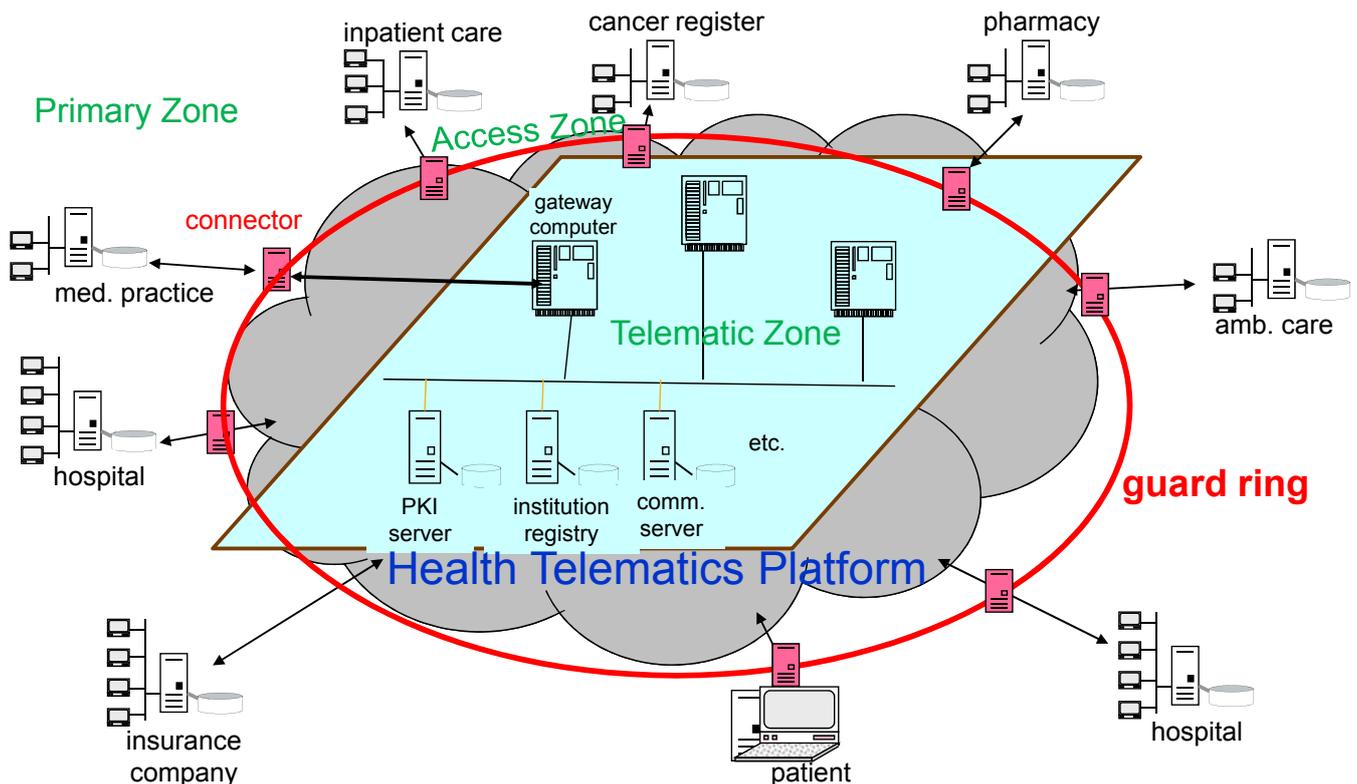
HITECH Act Meaningful Use of Health IT (US)

Stage 1: 2011–2012 Data capture and sharing	Stage 2: 2014 Advance clinical processes	Stage 3: 2016 Improved outcomes
Electronically capturing health information in a standardized format	More rigorous health information exchange (HIE)	Improving quality, safety, and efficiency, leading to improved health outcomes
Using that information to track key clinical conditions	Increased requirements for e-prescribing and incorporating lab results	Decision support for national high-priority conditions
Communicating that information for care coordination processes	Electronic transmission of patient care summaries across multiple settings	Patient access to self-management tools
Initiating the reporting of clinical quality measures and public health information	More patient-controlled data	Access to comprehensive patient data through patient-centered HIE
Using information to engage patients and their families in their care		Improving population health

9

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

German Health Telematics Platform



University of Applied Sciences and Arts Dortmund
Medical Informatics Department Prof. Dr. P. Haas

10

Copy Right: Ryuichi Yamamoto, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2014

Two cards form the basis of the telematics infrastructure



eHealth Card

- o photo
- o encryption of data
- o access to medical data

Health Professional Card

- o access authorisation
- o qualified signature
- o professional ID card

University of Applied Sciences and Arts Dortmund
Medical Informatics Department Prof. Dr. P. Haas

経済産業省東北復興に向けた地域ヘルスケア構築推進事業

臨床検査情報連携基盤の概要

臨床検査情報連携基盤の全体像

